

身近な治水 — 家の周りから考えると

テントに水が入らないように

キャンプをしたことはありますか？

テントを張る時には、まわりにみぞをほります。(ただし、最近のキャンプ場では、みぞをほってはいけないところが多いようです)

みぞの役割は、テントの上に降った雨や、まわりから流れこもうとする水をスムーズに流し、テント内へ入れないことです。

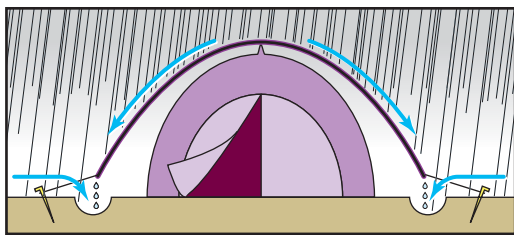
川は自然のみぞですが、もっと水が流れやすくなるように、幅を広くしたり、まっすぐにほり直したりするわけです。



① フライシート(雨よけのおおい)をかぶせる。



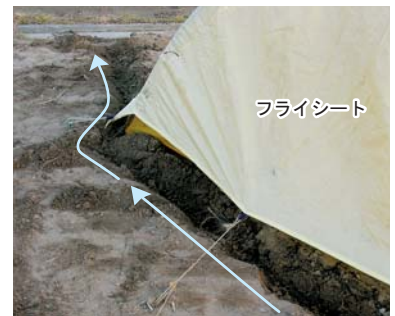
② フライシートをしっかりと張る。(テントとくっつくと、雨もりする)



テントの上に降った雨や、まわりから流れこもうとする水をみぞに流し、テントに入るのを防ぐ。



③ フライシートに合わせてみぞをほる。



④ みぞを地面の低い方へのぼす。



土入りのふくろ(土のう)を積んで、家を水から守る(平成15年十勝川水防演習)。

水がおし寄せてきたら

テントや家を建てる時には、できるだけ水があまり来ない所に建てるといいのですが、すでに他の人がいる場所などではそういきません。周りより地面が低いところにテントや家を建てる時、雨の時に水が集まてきます。

また、みぞや川の水があふれると、やがてはテントや家の中にも水が入ってきます。

この水を防ぐためには、家のまわりに土などを盛って囲いを造らなければなりません。

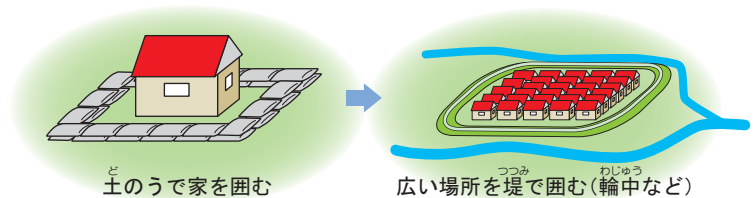
急いで囲いを造る時には、土を入れたふくろ(土のう)などを使います。

家の周り、地域の周り、そして…

1つの家だけでなく、たくさん家や広い農地を水から守るためには、地域全部を「堤」で囲うという方法があります(輪中など)。

さらに、人の暮らすところが広がっているところでは、堤を川にそって造るようになっていきます。

このように、堤防は家の囲いが大きくなったもの、という見方もできます。



川の方から見ると、堤防は町を囲んでいるようにも見える。

※1 輪中(わじゅう): 洪水(こうずい)から集落や農地を守るため、周りを堤防(ていぼう)で囲ったところ。人の暮らしが、ちょうど輪の中にあるようだったので「輪中」とよばれるようになった。木曾三川(きそさんせん): 木曾川(きそがわ)・長良川(ながらがわ)・

揖斐川(いびがわ)合流地域の中州のものがある。

参照: 「お米の学習 濃尾平野の米作り(輪中)」のページ 玉川学園 多賀譲治

<http://www.tamagawa.ac.jp/sisetu/kyouken/rice/noubi/>